

第4章 チャイルドシートの種類と取り付け方

1 チャイルドシートの種類

チャイルドシートは、乳児用シート、幼児用シート、学童用シートの3種類で、新生児から学童までの体重が36kg以下の者に対して使用します。

■チャイルドシートの体格区分

子どもの体重を基にチャイルドシートの製品に割り当てられている区分は、次の表のとおりです。

チャイルドシートにおける幼児等の体格区分

区分	W1	W2	W3	W4
子どもの体重	10kg未満	9kg以上18kg以下	15kg以上25kg以下	22kg以上36kg以下
シートの種類	乳児用	幼児用	学童用	
およその年齢	新生児～1歳くらい	1歳～4歳くらい	4歳～8歳くらい	6歳～10歳くらい

■チャイルドシートの種類とタイプ

(1) 乳児用シート

主として乳児期の子どもを、後ろ向き又は寝かせた状態にして、拘束又は定置するようにされた装置をいいます。

対象:体重10kg未満、身長70cm以下。新生児から1歳くらいまで。

特徴:この時期は骨格等が未発達のため、衝撃をなるべく体の広い面で受け止める必要がある。後ろ向きで背面拘束することで、首が据わっていない乳幼児を頭部から背中にかけて体全体で支えるようにする。

① 専用タイプ

大きく「ヨーロピアンタイプ(3点固定式)」と「アメリカンタイプ(2点固定式)」の2種類。

●ヨーロピアンタイプ

自動車の3点固定式シートベルトの機能をそのまま使って後ろ向き「背面拘束」に取り付けて使用する。取り付けに必要なシートベルトの長さは約230cm以上。



3点固定式(ヨーロピアンタイプ)

●アメリカンタイプ

自動車のシートベルト(主に腰ベルトのみ)で、後ろ向き「背面拘束」で使用する。固定金具を使用することで3点式シートベルトでも取り付けられる。



2点固定式(アメリカンタイプ)

② ベッドタイプ

低年齢期のものとしては、横向きベッドタイプがある。乳児・幼児兼用シートとして、6か月頃までは横向きで使用し、その後は背もたれを起こして後ろ向きに使用する。



横向きベッドタイプ

(2) 幼児用シート

幼児をシートベルトによって直接拘束しないもので、「インパクト・シールド^{※1}と補助シート^{※2}」との組合せ、「ハーネス(年少者用ベルト)^{※3}と補助シート」との組合せのいずれかの方法によって前向きに拘束又は定置するようにする装置をいいます。

- ※1 正面衝突の際に幼児の前方移動を制限するために、幼児の正面に取り付ける装置。
- ※2 幼児を着座させるために自動車の座席上に乗せる装置又は自動車の座席部に装備する装置であって、シート・クッションを備えたもの又はシート・クッション及びシート・バックを備えたものをいう。
- ※3 帯部、バックル、長さ調整具等で構成し、年少者を拘束する装置をいう。

対象:体重9kg以上18kg以下、身長60～100cm以下。1歳から4歳くらいまで。

特徴:幼児の首が据わり、自分で座れるようになったら、幼児用シートを卒業して幼児用シートに交換する。幼児をシートベルトによって直接拘束しないで、ハーネスやインパクトシールドなどで拘束する。取り付け方法には大きく分けて3タイプある。現在では3点固定式がほとんどである。

① ハーネス(年少者用ベルト)と補助シート(前向きタイプ)

●3点固定式

チャイルドシートを自動車の3点式シートベルトの「腰ベルト」と「肩ベルト」を有効に使って固定できるタイプ。シートベルトの緩みを防止するために、固定クリップやチャイルドシート内蔵クリップでより強固に取り付ける。シートベルトのALR機能*がある場合は、その機能を有効に活用することができる。

※ シートベルトの巻き取り機能(Automatic Lock Retractor)の一種で、後席シートベルトに付加されているチャイルドシート固定機能のこと。シートベルトを巻き取り機から全て引き出すと、巻き戻した位置でロックされる。



3点固定式

●2点固定式

自動車のシートベルトの主に「腰ベルト」で固定するタイプ。自動車が3点式シートベルトの場合には、固定金具を使って「肩ベルト」と「腰ベルト」を固定する必要がある。現在では、あまり市販されていないが再利用やレンタルでは多く使用されている。ぐらつきやすく、緩みやすいので、しっかり取り付ける必要がある。



2点固定式

② インパクト・シールドと補助シート (ベルト固定式)

自動車のシートベルトをインパクト・シールドなどを通して、チャイルドシートと子どもの体を一体化して「拘束」するタイプ。



ベルト固定式